

会 議 議 事 録

会 議 名	令和8年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2026年 5月15日（金） 11:00～12:30		
会 場	東京福祉専門学校 第3校舎 2-4 教室		
参 加 者	委員等	7人	卒業生代表：西田 憲司様（特別養護老人ホームきく） 保護者代表：永井 知子様（社会福祉科3年生在籍） 高等学校代表：加瀬 直人様（市原中央高等学校） 地域代表：赤羽根 智英子様（くすのき さざなみ会） 業界関係者： 池田めぐみ様（特別養護老人ホームなぎさ和楽苑） 皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura プラス） 中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	13人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 運営本部長 結城 健二（学校法人滋慶学園評議員） 事務局長 松川 勝吉 事務局次長 菊池 紀子 教務部長 北村 健明 広報センター長 小泉 佳代 産学連携推進センター長 石岡 真典 教務事務・学生サービスセンター長 坂本 美生 社会福祉科学科長 高田 邦之 心理カウンセラー科学科長 高野 大輔 介護福祉士科学科長 茂木 茜 キャリアデザイン科学科長 水谷 恵理子 社会福祉士一般養成科学科長 石川 真弓
会 議 録	<p>1. 学校長挨拶（小林） 入学式から1か月たち徐々に本格的に学校生活が始まっている。 色々な処遇改善が行われ、相当大きなプラスになっていくのではと期待している。 卒業生に対しても追い風が吹いているが現場では人手不足が改善しない状況が続いている。そういう意味でもこういう時期に本校に入学してくれた学生に対して出来る限りのことはしたいと考えている。学校運営に関わっている皆様の忌憚のないご意見を頂戴しながら学校を改善していきたいと考えている。是非率直なご意見を聞かせていただきたい。</p> <p>2. 委員のご紹介 新任委員への委嘱状のお渡し 市原中央高等学校 校長 加瀬直人様</p>		

2. 委員会の位置づけの変更について（松川）

平成 25 年に職業実践専門課程ができたときから実施している。

委員会は努力義務として、毎年、学内で自己点検・自己評価を行い委員の方に評価を頂いていたが、令和 8 年度より「自己点検評価」に名称変更をし、任意の開催となった。評価項目も変更あり。

変化を受け、本校での学校関係者評価委員会のコンセプトを「評価から共創へ」とさせていただき単なる評価を頂く場ではなく、今後の学校を共に作りあげる場としていきたい。

3. 2025 年度自己点検報告（松川）

●基準 1、基準 2

いずれの項目も本校としては特に問題なく実施できており、共に評価としては 3 をつけている。

【2025 年度教育について（北村）】

- ・中途退学者数 目標 32 名に対し実績 31 名 退学者率 5.1%

目標達成できたが学科によりばらつきがある。4 年制学科の退学者率が高くなっている。31 名のうち 1 年生 17 名、2 年生 11 名と大きな割合を占めている。

要因としては精神疾患が最多（47%）。続けてクラス不適應、目的意識喪失といった要因が続く。

- ・1 年生進級率 89.2% 目標 91.7%は未達成

- ・国家試験合格率 IT 医療ソーシャルワーカー科、作業療法士科（昼夜）100%達成
他の学科においても昨年を上回った。

介護福祉士科の留学生が 35%となった。

- ・ブランド化に向けて「生成 AI の活用」ご紹介（高野）

主体的・協働的な学びの実現を目指して、生成 AI を活用するスキルを身に付けながら学生の主体性を向上させられないかに取り組んだ。

結果、AI 利用頻度が 2.22→3.78 に向上。手順、見通しを立てたり、振り返りをすることに活用。出席率、成績の向上が見られた。

- ・2026 年度授業計画

「協働」を土台として「自立」を目指すためには「人との関わり」が必要となっていく。そのためにはクラスコミュニケーションを増やし、クラスでの「賞賛タイム」を増やすことを重要視している。

●基準 3、4 （松川）

- ・学生募集について（小泉）

定員 328 名に対し、入学者数 350 名と多くの学生に入学をしていただいた。

「広報＝教育」を柱として、広報から考える教育の価値づくりに取り組んだ結果と考える。

- ・新規学科創設「介護基本科（1 年制）」

介護福祉士科（2 年制）に進学を前提とし産学連携が学びの中心となる新規学科を創設

・既存学科のイノベーション 「キャリアデザイン科」

顧客、顧客の価値を再設定し、学科コンセプトを刷新。IT・WEB 専攻を新たに設置した。

●基準 5、6

教育環境、安全、防災については「評価 3」とした。5/11 に避難訓練、5/12 には職員を対象とした AED 研修を実施した。

基準 6 についても、事業計画を立て学校評価を実施し改善を継続しているため「評価 3」とした。

●評価・ご意見について

ご記入の上、5/29 までにご返送ください。

●2026 年度以降の取り組みと計画

2026 年度組織目的

人材を輩出するだけでなく「社会と福祉のネットワーク機関」を目指す。

業界と社会を繋げていくという考えのもと、各学科でこども食堂等の取り組みを考えている。今回は介護福祉士科の取り組みを見学していただきたい。

(介護福祉士科 学科長茂木より)

地域の高齢者の方に先生になっていただき介護の基本を学ぶということをやっている。本日は 14 名の高齢者の方が来校され、体操、昔遊び、おにぎりとお味噌汁を作って一緒に食べよう、というプログラムを実施している。

コミュニケーションの基本の姿勢やその人らしさを知ることが目的にやっている。

いつもの学びをアウトプットする機会としている。

またもう一方で、留学生が非常に多い学科の為、日本の文化や人の温かさを感じてほしいという思いもある。

(この後、介護福祉士科の授業を見学)

4. 委員からの質問、ご意見

西田様

高齢者福祉施設の介護職員の求人が全く来ない。来たとしても就労に不安定だった人や、精神的やコミュニケーションに何らかの課題がある人。法人では早めに外国人就労に目を向けていて、早期に外国人を積極的に採用してきた。一生懸命働いてくれるし、利用者にも対応できている。一定の期間はしっかりはたらいてくれるが、母校に帰国したりなど安定しないのも課題の一つ。

池田様

特定技能で日本に入ってきた人と東京福祉に入学して採用した人材は全然ちがう。特手技能で入ってきた人には日本の文化や生活から関わる必要があるが、専門学校を卒業した人は生活基盤ができています。

今後、採用する場合は養成校を卒業した人を採用したいと思っている。

また、現場はバランスが大切なので日本人も外国人労働者も大切にしたい

中里様

・作業療法士は、今まで以上にこどもの領域において、資格を持っている事の優位性が増した。このような資格の持つ強みを知ってもらうことで作業療法士の希望者を増やしてほしい。また、東京都作業療法士会も積極的な啓蒙活動をしているので、協働できたらよいと思う。

加瀬様

・高等学校の立場からすると、1年生の学生がどれくらい退学してしまうのか？また、国家試験は全員の学生が受験できているのかが気になる。情報公開はされているが、告知をしっかりとすることで、より信頼が得られるのではないかと？

皆川様

昨年、就労移行事業所から事業内容を拡大し、自立訓練を含めた支援を始めた。今までの課題として、就労定着の安定だった。就労環境をと整えるためには生活の基盤環境の設定が重要だと感じ、まずは自立訓練で生活全般の課題を整えてから就労支援につなぎたい。最近では精神疾患より、発達障害の利用者が多く、二次要因として精神疾患になるケースが多い。今までは期間を空けることで移行支援を繰り返し利用できたが、江戸川区の方針で生涯1回利用の方向性。そのため利用者もサービス導入に消極的になってしまっている。

永井様

・実習先で「資格を持っていても意味がない」というようなことを言われ、モチベーションが下がってしまっていた。資格を取る意味は親からは伝えられないので是非学校の先生から言ってほしい。

・AIは検索ツールとしては使っているようだが、紹介された学習ツールとしてまでは活用していない様子。ただ実習のレポート作成は手書きでかなり時間をかけて苦労しているのでそういった点でAIが活用できたらよい。

・将来に対する不安を漠然と感じているようだ（給与面とか長く続けられるのか）。
・中学の時、不登校だったがこの学校に入って友達もでき、非常に充実しているようだ。

学校長印